

## 日本工学アカデミー主催 国会議員と科学者が意見交換

公益社団法人日本工学アカデミー(安西祐一郎会長)主催の「政治家と科学者の対話の会」が3月3日、都内の衆議院第二議員会館で開かれ、同アカデミー会員の科学者と国会議員が意見交換を行った。

開会にあたり、大野敬太郎衆院議員があいさつし、「この対話の会も10回目。今だから



話題提供を行った(左から)赤松参院議員、大野衆院議員、平林衆院議員

こそ、この枠組みは大事だと改めて認識している。政治家と科学者が議論の前提条件を合わせていかなければならないが、対話の会がその役目を果たしている。本日は政治家から話題提供を行いたい」と語った。

続いて、平林晃衆院議員が「日本の研究力の相対的地位の低下と大学の危機をどう乗り越えるのか」、赤松健参院議員が「生成AIとクリエイター」と題して話題提供を行った。

平林氏は議員になる前、26年間にわたり情報分野の研究者として大学に勤務していた。こうした経歴を踏まえ、平林氏は「(日本の研究現場には)研究費、研究時間、教員ポスト、この3つがない」と強調。「今までの大学政策、科学技術政策はトップダウンが主流だった。しかし、現場の声をもっと生かしていかなければならない。これからはトップダウンとボトムアップを融合させて政策を前に進めていきたい」と述べた。

意見交換では、科学者側からは基盤的経費の拡充を求める意見、人材流動の活性化や女性研究者増を訴える声が寄せられた。日本工学アカデミーの安西会長は「大学等が活性化されていくことが日本の将来を決める」と話し、引き続き、議員らと協力していきたいとの意向を示した。

この日の対話の会には、大野議員、平林議員、赤松議員のほか、自民党の大串正樹衆院議員、小林鷹之衆院議員、小林史明衆院議員、公明党の河西宏一衆院議員、新妻秀規参院議員(リモート出席)、国民民主党の浅野哲衆院議員が出席した。